

# 新学校給食共同調理場の整備を進めています

～令和5年2学期から供用開始予定～

## 整備運営事業者を募集しています

市は、令和元年11月に策定した新学校給食共同調理場整備基本計画に基づき、中学校9校と単独調理方式の小学校8校の給食を提供する新しい学校給食共同調理場の整備に向けた取り組みを進めています。

このたび事業予定地である現共同調理場東側の国有地について、本市の取得要望が国に認められたことから、PFI法(民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律)に基づき、民間の資金や技術を活用し、効率的・効果的に新しい学校給食共同調理場を整備・運営するため、事業者の募集を開始しました。事業概要等は次のとおりです。

☎学校給食課・内線6812

## 1 事業概要

**場所** 泉町1156-15のうち(現共同調理場東隣)  
**敷地面積** 約12,000㎡  
**提供食数** 1日最大8,500食  
**配送対象校** 第一～第八小学校と全中学校(全17校)  
**事業期間(予定)** 令和3年6月から令和20年7月まで(17年1月)

## 2 今後の予定

令和2年度中に事業者を選定し、令和3年6月に事業契約を締結した後、設計、建設、開業準備期間を経て、令和5年2学期から供用開始の予定です。

並行して、新学校給食共同調理場の事業予定地の取得や配送対象校の改修も進めてまいります。



現共同調理場のアレルギー対応専用室



衛生管理基準に準拠した現共同調理場の施設

## 市民説明会を開催しました

市は、8月30日(日)と9月2日(水)に、本事業について市民説明会を開催し、合計50の方が参加されました。質疑応答での参加者からの主な質問や意見は以下の通りです。

- ・中学校給食の早期完全実施について
  - ・単独調理校の存続要望について
  - ・市民への周知・意見聴取について
- 詳細は市ホームページをご覧ください。

## 今後の説明会等の予定

- ・対象となる学校の保護者を対象とした説明会や、現共同調理場での試食会を開催
- ・本事業を周知するチラシを作成し、小・中学校等の保護者に配布

	令和2年度		令和3年度				令和4年度				令和5年度				
	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	
調理場整備	事業者の募集・選定・契約			設計(11か月)				建設(13か月)				開業準備	供用開始2学期から		
事業予定地取得	財務省と協議、諸手続き						売買契約								
配送対象校の改修	設計				工事										

立川市の歴史と文化財

43

## 新奥多摩街道の開通



昭和39(1964)年10月14日  
 自転車団体ロードレースで使用された新奥多摩街道  
 (写真奥にみえるのが国鉄中央線との立体交差)

東京2020大会が決定した平成25(2013)年9月8日のあの瞬間は、記憶に新しい方も多いことと思います。大会に合わせて、新国立競技場や有明体操競技場の建設、日本武道館などの施設改修を実施、インフラも整備され、あとは来年の開催を待つばかりです。

昭和39(1964)年のオリンピック開催都市が東京に決定したのは昭和34(1959)年のことでした。東京が開催都市となったことで、わずか5年の短い準備期間に、首都高速道路、東海道新幹線、上下水道などの大規模なインフラ整備のほか、国立代々木競技場、日本武道館などの会場が新設され、大会環境が整えられました。立川市内を通る新奥多摩街道(奥多摩バイパス)も同時期に整備された道路です。

昭和36(1961)年8月にオリンピック競技である自転車ロードレースのコースが決定しました。コースは八王子市、立川市、昭島市、日野市の広範囲に及ぶもので、オリンピック東京大会組織委員会会長の津島壽一から当時の東京都知事東龍太郎に対して道路や施設の改修・補修が依頼されました。自転車ロードレースコースの敷設には条件があり、会長津島からの依頼文書(東京都公文書館所蔵)には「巾員を最底6メートル(8メートルの舗装とする)」と記載されています。こ

の道路は国鉄(現JR)中央線や八高線とも交差するため、国鉄にも通達し、協力を願いました。また、コース決定の前、7月の段階で、警視庁からは交通警備の観点から組織委員会へ要請文書が出されていました。団体コースに関しても、「温泉(立川市)前から中神(昭島市)に至る新設道路を建設すること」とあり、「旧青梅街道は所沢街道と甲州街道に連絡しているため交通量も多く、立川市内循環バスも通っており適当でない」と指摘され、万一、新設道路が完成しなければ、団体コースを全面的に変更するのはやむを得ないとまで書かれています。立川温泉は昭和32(1957)年から昭和47(1972)年まで、現在の日野橋交差点南西側にあった公衆浴場で、新設予定の道路付近には田畑が広がっていました。新聞資料によれば、新設道路は昭和33(1958)年には着工されており、その完成を見越しての内定だったようです。

完成した道路は、昭和39年6月11日に一般開放されました。同年6月14日付朝日新聞記事には「都市計画道路が完成、11日午前10時から一般に開放される。この道路は立川市内を通る交通量の多い、狭い奥多摩街道のバイパスの役目を果たすもので、オリンピックではロードレースのコースの一部にも予定されている。(中略)完成分は総延長4620メートル、幅員20メートルの2車線、国鉄中央線とは立体交差し(中略)この道路の完成で立川―青梅間の交通はぐんと楽になる」と掲載されています。総工事費は約5億5千万円にも及んだといわれています。

歴史民俗資料館では、10月27日(火)から12月13日(日)まで企画展「東京1964オリンピック―立川の記憶―」を開催中です。オリンピック開催都市である東京の一都市、立川の街の記憶から捉えるオリンピックという世紀のイベントについてさまざまな資料からみていきます。来年開催される東京2020大会を立川からも盛り上げていきましょう。

歴史民俗資料館(生涯学習推進センター)文化財係 ☎(525)0860